

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第5号 野菜

発行日 平成26年 7月31日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ **全般** 7月21日頃から気温の高い状態が続いています。8月第1週頃まではこの状態が続く見込みですので、高温対策やこまめな灌水管理を行うとともに、作業時は水分補給と休憩をとり熱中症にならないよう気をつけましょう。
- ◆ **ハウス果菜類** 高温対策、草勢維持、病虫害防除を徹底しましょう。
- ◆ **露地きゅうり** 整枝・摘葉と重要病害に対する初期防除を徹底しましょう。
- ◆ **ほうれんそう** 天候の変動に対応した遮光管理と適切な灌水管理をしましょう。
- ◆ **露地葉茎菜類** 適期作業・病虫害防除を徹底しましょう。

1 生育概況

- (1) 雨よけトマトは現在4~7段花房中心の収穫となっています。定植以降高温、乾燥の影響から、2~3段果房を中心に尻腐れ果の発生が目立ったほか、果実の着色が早い傾向にあります。病虫害では灰色かび病の発生が例年より少ないものの、一部で葉かび病、うどんこ病、輪紋病の発生が見られます。また、アザミウマ類やオオタバコガによる果実への被害が散見されます。
- (2) ハウスピーマン、露地ピーマンともに生育は概ね順調ですが、成り疲れ等による草勢の低下が散見されます。露地ピーマンは、高温乾燥の影響により日焼け果や尻腐れ果の発生が広く見られ、一部で多発圃場もあります。病虫害では灰色かび病、斑点病、ウイルス病の発生が見られ、ウイルス病は一部多発圃場も見られます。ヨトウムシ、タバコガ、アブラムシ、アザミウマ類、ハダニ等の発生が見られ、被害が散見されます。
- (3) 半促成きゅうりの収穫は終盤となり、今後抑制きゅうりが作付されます。露地きゅうりの生育は全般に良好ですが、一部で根張り不良によるしおれや側枝の発生が鈍い圃場も見られます。病虫害では、病害の発生は全般に少ないものの、一部地域でべと病・炭そ病の発生が見られるほか、ホモプシス根腐病が散見されています。害虫ではアブラムシやハダニの発生が多い傾向です。
- (4) 雨よけほうれんそうの生育は概ね順調ですが、一部の地域で抽苔の発生や、排水不良の圃場では過湿害による品質低下が見られます。病虫害では萎ちょう病が見られる他、アブラムシ類、アザミウマ類は継続的に発生し、シロオビノメイガやケナガコナダニが発生している地域があります。
- (5) キャベツの生育は概ね順調で、定植作業も概ね順調に進んでいます。一部に7月10日以降の降雨後に急激に肥大が進み、収穫作業が遅れている圃場が見られます。病虫害では、育苗時のべと病が散見されます。例年よりアブラムシの発生が多くなっています。

レタスの生育は概ね順調です。結球レタスの出荷は平年並ですが、非結球レタスの出荷量が減少しています。病虫害では低温性のべと病の発生が多い他、高温性のすそ枯病、軟腐病も発生しています。また、オオタバコガの発生が始まっています。

ねぎの生育は概ね順調で、早出しの収穫が始まっている地域があります。病虫害では、べと病、黒斑病、さび病、葉枯病が見られる他、一部の地域でネギアザミウマ、ネギハモグリバエの発生が見られます。

2 技術対策

(1) 全般

7月21日頃から気温の高い日が続いています。この傾向は、8月上旬頃まで続く見込みですので、施設野菜では高温対策を徹底し、施設・露地ともこまめな灌水管理や通路散水等により草勢維持を図りましょう。

また、作業も適宜休憩をとり水分補給を十分に行い、熱中症にかからないよう気をつけましょう。

(2) ハウス果菜類の管理

トマト、ピーマンなどのハウス果菜類では最盛期を迎え、生育が旺盛となり、風通しが不良になってきますので、整枝や摘葉、誘引作業を遅れないように実施するとともに、病虫害防除では、くん煙剤の利用など効率的な防除を行います。

高温対策として遮光資材の利用や換気を積極的に行い、生育適温を超えない範囲でハウス内気温を維持しましょう。通路散水も、ハウス内気温や地温を下げるのに有効です。日中にハウス内気温が十分に下がらないと、夜間の呼吸消耗により草勢低下がさらに助長されるので、暑さが続く場合は高温対策をしっかりと行って下さい。なお、収穫量、気象条件などを考慮した追肥方法を選択し、草勢の維持・回復を図り、収穫最盛期を乗り切ります(図1、図2参照)。

また、7月17日にオオタバコガの防除速報が出されていますので、今後も予察情報を参考に薬剤散布を行うようにしましょう。

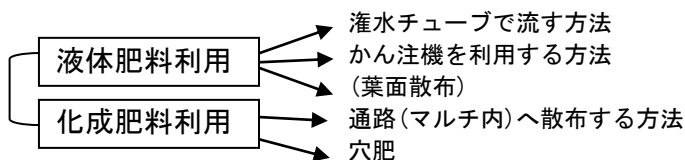


図1 追肥方法の種類

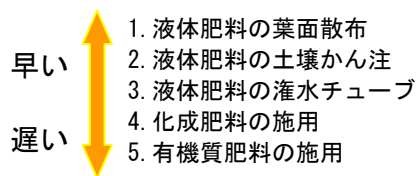


図2 肥料の種類による肥効の早晚

ア 雨よけトマト

桃太郎系品種は、5~6段果房の着果期以降に草勢が低下しやすく、草勢が低下すると回復が難しくなるので、こまめな追肥と灌水で草勢の維持を図りましょう。この時期は、すじ腐れ果、空洞果などの発生が多くなりますが、窒素過多や高温、多湿にならないようにするとともに、肥培管理が重要となります。また、収穫後の花房下の葉は摘葉し、通風を良好にします。

なお、葉かび病抵抗性遺伝子 Cf-9 を有する品種(桃太郎セレクト、CF 桃太郎はるかなど)であっても、定期的に防除を行うようにしてください。

また、萎ちょう性病害も増加傾向です。しおれが発生した場合は最寄りの指導機関に診断を依頼し、原因を特定した上で次年度対策を講じて下さい。

イ ハウスピーマン

収穫の終わった枝や主枝の内側が混み合い光不足になる場合は、不要な枝を摘み内側に光が十分当たるようにします（図3）。

また、果肉の薄い品種では特に急激な高温になると尻腐れ果が発生しやすくなるので、通路やマルチ上にワラを敷いたり灌水を積極的に行うなど、地温低下を図るとともに土壌中の水分不足を防ぎます。

尻腐れ果はカルシウム不足が原因ですが、窒素肥料成分が濃くなると相対的にカルシウムの吸収が阻害されますので、暑い時期の追肥は通常よりやや薄い濃度で行うこと、予防的対応としてカルシウム剤の葉面散布等も効果的です。

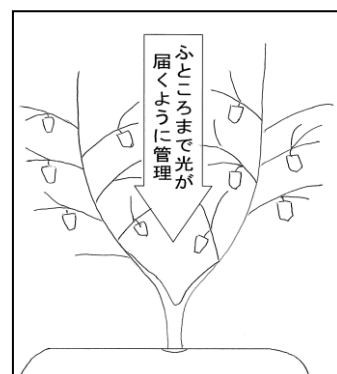


図3 最盛期における理想的な草姿

(3) 露地きゅうり

収穫量の増加に伴い、草勢維持と病害虫の蔓延防止が重要な管理となります。摘葉を基本に整枝は控え目とし、曲がり果や尻太り果などを摘果しつつ、図1を参考にしながら追肥を実施して草勢の維持・回復を図ります。現時点で側枝の発生が鈍い場合は、不良果を早めに摘果するとともに強めの整枝を控え、生長点を残して根張りを促進してください。

また、盛夏期を迎え、高温乾燥が続くと草勢低下につながりますので、灌水装置を備えている圃場では少量多灌水を基本に、土壌水分の変動を少なくする灌水管理に心がけます。灌水装置がない圃場では敷きわら等で土壌水分の保持を図ります。

摘葉は、主枝葉を中心に病葉、老化葉のほかに新しい側枝を覆っている葉を中心に行い、側枝の発生を促します。整枝は、それぞれの仕立て法に応じて行いますが、草勢低下時は半放任または放任管理とします。

薬剤防除は、褐斑病、炭そ病、べと病を重点とし、これら病害に効果のある薬剤を選択して予防散布に努めます。なお、褐斑病や炭そ病の発病が見られる場合は、病葉を摘葉した後で効果の高い薬剤を選択して散布します。

また、収穫最盛期を迎え曇雨天後に急激な晴天になると「しおれ」症状が発生することが予想されます。病害（ホモプシス根腐病(写真1、写真2)、つる枯れ病等)による場合と生理的な原因による場合がありますので、「しおれ」症状が発生した場合は最寄りの指導機関に連絡し、根の状態等を確認の上、次年度以降の対策を検討してください。



写真1 ホモプシス根腐病によるしおれ

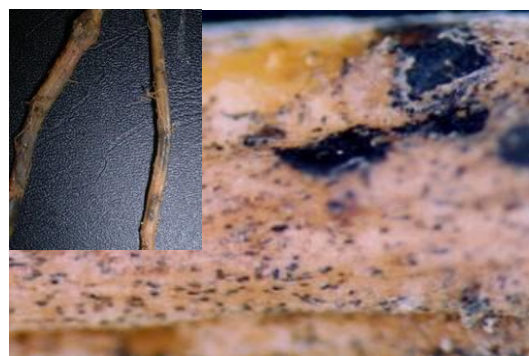


写真2 ホモプシス根腐病による根の状態
(左上：黒変症状 右：200倍に拡大)

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

曇雨天後の強い日差しにより葉がしおれたり、葉焼けを生じる場合があります。特に生育初期の地際部は高温障害を受けやすいので、遮光資材等を利用して急激な日射、温度の変化を避けるようにしましょう。

また、強い日差しにより高温状態が続くと、土壌が乾燥してほうれんそうの生育が停滞します。播種前の灌水はムラなく丁寧に行うとともに、圃場の乾燥状態に応じて生育中の灌水も行いましょう。

生育中の灌水を行う場合は、本葉 3~4 枚時以降とし、涼しい時間帯を選んで灌水します。ただし、まとまった量の灌水 (5~10mm) は収穫 3~4 日前までとし、その後は土壌表面が湿る (葉水) 程度とします。なお、過度の灌水はトロケやべと病の発生を助長するので、注意します。

例年、萎ちょう病等の土壌病害が発生し、収量が大幅に低下する場合には、土壌消毒を実施して土壌中の病原菌密度を低減し、生産の安定化を図りましょう。また、土壌病害は土壌消毒に頼るだけでなく、適正な施肥や良質な有機物の施用、残さの処理、萎ちょう病に強い品種の導入等総合的な対策を実施しましょう。

例年よりアブラムシ類の発生が多い傾向にあるので、播種時または生育期に効果の高い薬剤で防除を実施しましょう。

イ キャベツ・レタス

気温の上昇に伴い、軟腐病等の腐敗性病害の発生に注意が必要となります。葉の裏や株元まで十分薬液が届くように防除しましょう。

害虫発生にも注意し、定植時から防除を行いましょう。特に、オオタバコガは幼虫が結球内部に食入するとその後の防除が困難となるため、発生初期ならびに結球始期からの防除を徹底しましょう。また、8月中旬以降、再びヨトウガが発生する時期となりますので、計画的な防除を心がけてください。

多雨等により圃場に滞水した場合は、圃場作業が可能になったら畦間の中耕を行って土壌中に空気を送り、根の活性化に努めます。必要に応じて液肥を薄い倍率で灌注または葉面散布し、草勢回復を促します。

これから収穫する作型では、天候の変動により、裂球や生理障害の発生が多くなりますので、適期収穫に努め、収穫率の低下を防ぎましょう。収穫終了後の圃場はできるだけ速やかに整理し、病害虫の発生源とならないように注意しましょう。

ウ ねぎ

軟腐病、黒斑病の重点防除時期になるので定期的に防除を実施しましょう。

土寄せは生育状況や天候を見ながら行い、葉鞘径を肥大させるため、無理な土寄せは行わないようにしましょう。

なお、作型や品種によっては、最終土寄せを行う時期となります。8月収穫の場合、最終土寄せは収穫予定の15日前を目安とします。



写真3 本葉3~4枚の状態
かん水を行うならこの時期から



写真4 ベと病に感染したねぎ

最終土寄せ時に丁寧に土入れを行わないと、軟白部と葉の色の境が不鮮明な「ボケ」となり、品質が低下しますので、計画的な作業、適期収穫を心がけましょう。また、収穫が早い作型では収穫前日数に注意して防除を実施します。

エ アスパラガス

茎枯病や斑点病等の病害やアザミウマ類の発生が懸念されますので、定期的に薬剤防除するとともに、立茎栽培では、株の消耗や茎葉が繁茂しすぎないように、萌芽してくる若茎は弱小茎や曲がった茎も含めて刈り取ります。

促成アスパラガスの伏せ込み用根株への追肥は、8月上旬までには終了させましょう。生育後半まで肥料が効いている状態では、円滑な養分転流が妨げられる恐れがあります。また、普通栽培・立茎栽培と同様に、斑点病の発生には十分注意して、必要に応じて防除しましょう。

次号は8月28日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

6月1日～8月31日は 農薬危害防止運動期間です

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。